

中国産冷凍食品による薬物中毒事案の実態把握に関する調査
(中間報告)

平成20年7月

中国産冷凍食品による薬物中毒事案の実態把握に関する検討会

I はじめに

本年1月29日、東京都から厚生労働省に対し、兵庫県及び千葉県において、有機リン中毒の疑いがある事案が発生し、両県事案においては、患者すべてが発症直前に、JTフーズ(株)(東京都品川区)が中国から同一時期(平成19年11月)に輸入した同一製造者(河北省天洋食品工場)の冷凍餃子を喫食しており、警察の検査において患者の吐瀉物等から有機リン系薬物(メタミドホス)が検出されている旨の報告があった。

本事案を受け、厚生労働省としては、関係機関と連携し、被害の拡大防止、原因の究明及び再発の防止について、全力で取り組んできたところである。

今次薬物中毒事案については、これら有機リン系農薬の混入等の原因は未だ明らかとはなっていない状況であるが、今次事案により国民生活の根幹である食の安心・安全への信頼は大きく損なわれており、原因究明を待つことなく、今後同種の事案が発生した場合に備えることは急務である。

このため、今後の類似事案発生時の早期対応に資するため、今次事案において、確定患者及び相談・報告のあった事例についての詳細な分析と回収食品の検査結果等の情報収集を通じて、全体像の把握を行った。

II 検討の概要

1 目的

中国産冷凍食品による薬物中毒事案については、全国で10人の確定患者と、5千人を超える相談・報告事例(参考資料1)があったが、これらについて、詳細に分析を行うとともに、回収された食品の検査情報(参考資料2)を併せて考察を行うことは、今後の類似事案の発生予防や、発生した際の早期対応に資するものと考えられる。

そこで、食品による有機リン中毒の健康影響について知見を集積するとともに、確定患者に関する情報、報告・相談事例に関する情報、及び回収食品の検査状況に関する情報を収集し、検討を行うこととした。

2 検討方法

「中国産冷凍食品による薬物中毒事案の実態把握に関する検討会」(参考資料3)を設置し、検討した。

第1回検討会 平成20年4月10日(木)

第2回検討会 平成20年7月8日(火)

III 検討結果

1 中国産冷凍食品による薬物中毒事案の確定症例の概要

1) 調査目的

中国産冷凍食品による薬物中毒事案については、平成19年度末までに、全国で3家族 10 人の確定患者が報告された。

今後の類似事案の発生予防や、発生した際の早期対応に資することを目的に、確定された 10 人の患者について、詳細な分析を実施した。

2) 調査方法

10 名の確定患者を診断した医療機関(千葉市立青葉病院、千葉市立海浜病院、順天堂浦安病院、浦安市川市民病院、高砂市民病院、兵庫県災害医療センター)を訪問し、担当医等より状況を聴取した。

3) 調査内容

- (1) 10 名の患者の臨床所見及び治療内容
- (2) 臨床的特徴

4) 症例の概要

(1) 事例1

(ア) 来院までの経過

- ・18 時 30 分頃、大人1名、小児1名が夕食時に中国産冷凍ギョウザを喫食(味が変わったので半口程度)。
- ・30 分後に大人に上腹部痛、嘔吐(5 回)、下痢(3 回)出現。
- ・20 時頃、一次救急外来を受診。
- ・大人は、血圧 106/62mmHg、心拍 67 回/分、体温 34.5 度。強い腹部痛、著明な発汗、意識レベルの低下があり、二次救急施設へ転院。
- ・小児は 21 時頃から嘔吐があつたが、一次救急外来受診のみ(体温 36.4 度)で帰宅。

(イ) 来院時状況

- ・22 時頃、大人が二次救急を受診。
- ・血圧 123/81mmHg、体温 34.7 度。
- ・心窩部痛、腹部グル音亢進、嘔気、嘔吐、下痢、著明な発汗、四肢冷感、チアノーゼ、顔色不良あり。腹痛、嘔気など改善なく経過観察入院。

(ウ) 治療内容を含む退院までの経過

- ・急性胃腸炎、食中毒として治療実施。
- ・点滴(補液)、ブスコパン、プリンペランを投与。

- ・翌日退院。
- ・(入院しなかった小児は、一次救急外来にて、ナウゼリン坐薬を処方。)
- ・主な検査異常:白血球数上昇、血糖値上昇、血中ケトン体上昇、血中カリウム値低下、pO₂ 低下、pCO₂ 上昇 等
- ・コリンエステラーゼは測定せず。

(エ) 退院時及び退院後の状況

- ・退院時、軽度腹痛残存あり
- ・2月4日に勧奨受診。コリンエステラーゼ、肝機能、MRI などの検査を実施。自覚症状を含め、異常所見なし。
- ・大人が小児に後遺症や晩発症状が出ないかとの不安が強いため、自治体によるメンタル面のフォローアップを実施。

(2) 事例2

(ア) 来院までの経過

- ・18時50分頃 大人2名、高校生1名が、夕食に中国産冷凍ギョウザを喫食。味がおかしいと感じたが高校生はそのまま12個、大人(男性)は2個食べ、大人(女性)は1個食べて吐き出した。
- ・食べた直後から、高校生には嘔吐、回転性のめまいが出現し、大人(女性)が付き添って救急搬送。
- ・高校生の搬送直後に、大人(男性)も同様の症状が出現し、救急搬送。
- ・その後、付き添って来院していた、大人(女性)も病院内で同様の症状が出現。

(イ) 来院時状況

① 高校生

- ・19時10分頃、意識レベルの低下、多量の発汗、嘔気・腹痛あり。血圧は正常。
- ・20時頃、意識レベル低下、筋攣縮、口腔分泌物あり。

② 大人(男性)

- ・19時35分頃、家人に支えられて歩行来院。
- ・多量の発汗、腹痛、嘔気、筋力低下あり。
- ・悪寒、湿性咳嗽。

③ 大人(女性)

- ・20 時頃、病院のトイレでしゃがみこんでいた。口のしびれ、嘔気、筋力低下あり。

(ウ) 治療内容を含む退院までの経過

①高校生

- ・胃洗浄を施行。酸素投与、昇圧剤、点滴。
- ・翌日、呼吸状態悪化、眼振あり。
- ・9 時、縮瞳を認める。コリンエステラーゼ低値。
- ・16 時前頃、PAM、FOY を投与(硫酸アトロピンは投与なし)。CHDF 開始(それまではほぼ無尿の状態だったとのこと)。
- ・翌々日、手のこわばり感を訴え、転院となった。
- ・主な検査異常：白血球数上昇、血糖値上昇、アミラーゼ上昇、AST、ALT、LDH 上昇、総ビリルビン上昇、PT 上昇、CRP 上昇 等
- ・転院後、呼吸・循環は安定しており、PAM および硫酸アトロピンは投与されていない。上腹部痛を中心とした腹部の疼痛・圧痛、CT で腸管浮腫と腹水貯留が認められた。絶飲食で経過観察。
- ・10 日後に退院し(この時点の CT で腹水消退、腸管浮腫改善)、前医の外来通院となった。

②大人(男性)

- ・胃洗浄を施行。嘔吐、下痢頻回。
- ・翌日、心拍数一時的に低下あり。意識レベル不安定で、朦朧としている。
- ・12 時頃、縮瞳に気づく。コリンエステラーゼ低値。
- ・PAM、FOY 投与(硫酸アトロピンは投与なし)。
- ・主な検査異常：白血球数上昇、血糖値上昇、アミラーゼ上昇、AST、ALT、LDH 上昇、CRP 上昇 等
- ・翌々日転院。CTで脾臓の腫大、腹水を認める。
- ・6 日後、転院先から戻り、肝機能が落ち着くまで入院(飲酒歴も長引いた要因か)。20 日後に退院。

③大人(女性)

- ・胃洗浄を施行。顔面紅潮、腹痛、嘔気、嘔吐(頻回)あり。ブスコパン、プリンペランの投与。ペンダジン投与。
- ・翌日、腹痛持続。縮瞳はないが、コリンエステラーゼ低値。
- ・PAM 投与(硫酸アトロピンは投与なし)。13 日後退院。

- ・主な検査異常：白血球数上昇、血糖値上昇、CRP 上昇 等

(エ) 退院時及び退院後の状況

① 高校生

- ・退院時は完治。
- ・退院直後不安が強かったが、(現在は安定)。
- ・退院後、左上肢のしびれと背部痛を訴える(現在も継続)。

② 大人(男性)

- ・退院時は完治。
- ・退院後、背部痛を訴え、(現在も継続)。

③ 大人(女性)

- ・退院時は完治。
- ・退院後、左上肢のしびれを訴え、(現在も継続)。

(3) 事例3

(ア) 来院までの経過

- ・20 時過ぎ、大人 1 名、小児 4 名が、中国産冷凍ギョウザ等を夕食に喫食。
- ・20 時 30 分過ぎ、第四子、第三子、第二子、第一子の順に激しい腹痛、嘔吐、下痢を訴えた(当初親は無症状)。
- ・21 時 22 分、救急隊へ救急要請があり、21 時 32 分救急隊到着。
- ・22 時 10 分、大人が同乗し、小児 3 名が小児科を受診(長子是他院を受診し入院)。

(イ) 来院時状況

① 第四子

- ・体温 37.5 度、血圧低下(86mmHg/測定不能)、寒いと訴えあり。
- ・顔色不良、チアノーゼ、陥没呼吸。
- ・嘔気、嘔吐、グル音の亢進著明。
- ・喘鳴著明、呼気の延長著明。

② 第三子

- ・腹痛、嘔気、嘔吐、下痢、グル音亢進。

- ・小児科入院。

③第二子

- ・腹痛、嘔気、嘔吐、下痢、グル音亢進。
- ・小児科入院。

④第一子

- ・(翌日、家族と同じ病院へ転院し、内科入院。)

⑤大人

- ・顔色不良だったが、本人は車酔いだと認識。
- ・その後トイレで倒れているところを発見され、内科救急を受診し入院。

(ウ) 治療内容を含む退院までの経過

①第四子

- ・意識レベル低下、分泌物増多、血圧低下、努力性呼吸増強のためプロタノール持続吸入。気管挿管し、人工呼吸開始(入院4時間後)。
- ・眼球の浮腫、眼振がありグリセオール投与。
- ・翌日、酸素化改善し、尿が出始めるが、手足のけいれんが出現。縮瞳に気づく。徐脈あり。
- ・コリンエステラーゼ低値。尿有機リン簡易分析(+)
- ・全身管理目的で転院。
- ・転院後、胃洗浄(異臭なし)、ICU管理。
- ・PAM(2日間)、アトロピン(21日間)投与。
- ・8日後抜管、10日後ICU退室。
- ・13日後あたりから、夜間不穏、急性ストレス反応に改善がみられ、食欲が増加。25日後に退院。
- ・主な検査異常
(最初の病院)白血球数上昇、血糖値上昇、血中カリウム値低下
(転院後)白血球数上昇、BUN 上昇、クレアチニン低下、アミラーゼ上昇、AST、LDH 上昇、CRP 上昇 等

②第三子

- ・絶食後、点滴。当初激しい腹痛を訴えていたが、明け方には軽減。
- ・翌朝、眼がみえいくいと異常を訴え。縮瞳、徐脈あり。
- ・コリンエステラーゼ低値。尿有機リン簡易分析(-)

- ・PAM(4日間)、アトロピン(16日間)投与。
- ・24日後に退院。
- ・主な検査異常:白血球数上昇、血糖値上昇、血中カリウム値低下

③第二子

- ・絶食後、点滴。入院直後より良眠。
- ・翌朝、縮瞳に気づく。徐脈あり。
- ・コリンエステラーゼ低値。尿有機リン簡易分析(+)
- ・PAM(4日間)、アトロピン(16日間)投与。
- ・24日後に退院。
- ・主な検査異常:白血球数上昇、血糖値上昇、血中カリウム値低下

④ 第一子

- ・幻覚や興奮などの神経症状あり。
- ・コリンエステラーゼ低値。尿有機リン簡易分析(+)
- ・PAM(8日間)、アトロピン(8日間)投与。
- ・24日後に退院。
- ・主な検査異常:白血球数上昇、血糖値上昇、血中カリウム値低下

⑤ 大人

- ・幻覚や興奮などの神経症状あり。
- ・コリンエステラーゼ低値。尿有機リン簡易分析(-)
- ・PAM(8日間)、アトロピン(8日間)投与。
- ・24日後に退院。
- ・主な検査異常:白血球数上昇、血糖値上昇、血中カリウム値低下

(エ) 退院時及び退院後の状況

全員完治

5) 症例の特徴等

(1) コリンエステラーゼの回復が極めて速い

- ・農薬の経口摂取による自殺企図事例における有機リン中毒と比較して、極めて速やかにコリンエステラーゼ測定値が改善した。

(2) 1家族に腓炎様の症状あり

- ・3家族のうち1家族において、3症例中2例に検査値及びCT画像上、腓炎

を疑わせる所見があった。

- 文献的には有機リンにより肺炎様症状を呈することはあるが、軽症例では稀なことである。

(3) 臨床症状の消失

- 10症例のうち、長期入院した8例については、いずれも退院時には症状は消失(完治)している。
- また、外来のみであった1例、1日のみの入院であった1例についても、1か月余り後に勧奨受診した際には、症状は消失していた。
- 1家族3例について、退院後に上肢のしびれや背部痛等の症状が出現しているが、この新たな症状と有機リン中毒との関係は必ずしも明確でない。